

6月27日（火）、4年1組で総合的な学習の時間の努力点公開授業が行われました。単元は「環境について考えよう」です。これまでも、「川・海の汚れ」や「CO<sub>2</sub>」などの環境問題について考えてきました。今回の授業のテーマは「食品ロス」です。

ところで、日本で、1年でどれだけの食品が捨てられていると思いますか。実は600万トンもの食品が捨てられています。先日、栄養教諭から食に関する指導を受けた際、大野木小学校の食品ロスについて教わりました。1日当たり、80人分の食品が捨てられているそうです。



【環境問題を振り返る児童】

この捨てられる生ごみは、堆肥として使ったり、可燃ごみとして処理されたりします。そこで可燃ごみとして処理された場合、CO<sub>2</sub>の排出問題や埋め立て地問題が出てきます。児童は、これまでに学んできた環境問題に広がることを確認しました。

ここで、教師が、「これだけ問題があるのなら、給食をやめればいいのか」と投げ掛けました。「遠足のときに弁当を残さず食べた人」と聞くと、多くの児童が挙手をしました。そしてさらに、「給食ではなく、弁当にすればいいのか」と、揺さぶりました。

「学校の昼ご飯は、弁当か給食か」を問うと、若干弁当の方が多くなりました。右の写真で、赤帽子を被っている児童は「弁当」、白帽子を被っている児童は「給食」です。次に、教師が「立場を決めて話し合います」と課題を与えました。つまり、初めに「弁当」を選んだ児童でも、「給食」の立場と決められたら、「給食」の立場に立って、給食のよさを考えることとなります。児童は、同じ立場の友達とペアでそれぞれによさを書き出しました。



【考えを赤白帽子で示す児童】

活動の最中、初めに「弁当」を選んでいていた児童が、給食のよさを書き出していると、「なんか、給食の方がよく思えてきた」とつぶやきました。それぞれによさがあることが分かり、この後の話し合いの材料が集まった様子でした。



【弁当のよさを書き出す児童】

次は、「弁当」「給食」が合わさった4～5人のグループになり、それぞれのよさを話し合いました。その後、再度、弁当がよいか給食がよいかを考えさせました。児童からは「決められない」という声が上がっていました。



話し合いの場面では、相手の意見を否定したり、反論をしたりしがちです。しかし、今回の授業のように、認め合うことを決まりとすることで、互いの意見のよさに気付くことができると分かりました。これからも、否定し合う話し合いではなく、認め合い、高め合える話し合いをさせていきたいです。